

2016年12月9日
株式会社日立製作所

英国のニュートン・エイクリフ工場で製造した第一号車両が完成 英国都市間高速鉄道計画向けに納入

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)の英国における鉄道システム事業会社である日立レールヨーロッパ社(社長:Karen Boswell(カレン・ボズウェル))は、2015年9月に開所した英国ダーラム州ニュートン・エイクリフの鉄道車両工場で製造した第1号車両を完成させ、本日公開します。第一号車両は、都市間高速鉄道計画(IEP: Intercity Express Programme)向け Class800 です。

本日、ニュートン・エイクリフ工場にて車両公開式典を開催し、クリス・グレーリング英国運輸大臣やアンドリュー・パーシーイングランド北部経済成長政務次官、鶴岡公二駐英国特命全権大使などが出席する予定です。

IEPは総事業費57億ポンド規模のプロジェクトで、英国の鉄道による都市間移動を近代化するために、現在使用されている車両を日立の Class800 シリーズに置き換えるプロジェクトです。ニュートン・エイクリフ工場の製造ラインから第一号車両が出荷されることは、本プロジェクトにとってマイルストーンとなります。このプロジェクトを遂行することで、主要幹線である Great Western Main Line と East Coast Main Line を利用する乗客に、最新の都市間高速車両122編成(866両)を提供し、輸送能力や信頼性、快適性を大幅に改善します。

日立レールヨーロッパ社はニュートン・エイクリフの車両製造工場で、2017年の春までに約900人を雇用し、2019年までには、製造工場や車両保守施設を含む英国内の14拠点で、従業員数が約2,000人になる予定です。また、新しい車両の部品サプライヤーを中心に、英国全土で何千人もの雇用を生み出します。

日立レールヨーロッパ社は、車両の製造だけではなく、車両の保守も行い、2020年までに、英国における最大規模の車両保守事業者になる予定です。今後、英国の鉄道網で、日立が製造した281編成(1,630両)の列車が運行され、都市間および通勤路線沿線の何百万人もの乗客を運ぶこととなります。

株式会社日立製作所 執行役常務 鉄道ビジネスユニット COO 正井健太郎のコメント

「英国で製造された初めての IEP 向け車両の完成を祝うことができることを大変喜ばしく思います。日立の技術者が当時の最先端の鉄道技術を研究するために、最初に英国北部を訪れたのは90年前の1926年のことでした。現在では、日本の技術と英国の製造ノウハウを組み合わせ、最新の都市間高速車両を完成させるまでに至りました。日立は、英国の顧客と鉄道利用者に、最高品質の車両を計画通りに提供することに引き続き注力していきます。」

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
